

2025年度 講義要綱

科 目	子ども家庭支援の心理学 必修 2単位 講義			講 師	小沢 恵美子
授業概要	他者と適切に関わるには「その人のことを理解する」ことが重要となる。相手を理解するとはどういうことか、理解するためにはどのような知識が必要なのか等を授業を通して考えていく。				
授業目標	保育や教育の根幹となる「子どもを理解する」ことについて、理解して自分の言葉で説明できる。 保育者に求められるカウンセリングの考え方、知識を身につける。 実際の保育場面、相談場面を想定して、保育者の立場からの対応や支援を考える。				
到達目標1	保育者として必要な知識(子どもを理解する、カウンセリング、相談支援など)を理解して、理解した内容を他者に適切に説明できるようになる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業に関するリアクション・ペーパー(15点)、期末試験(40点)		
到達目標2	自分が保育者となった場合を想定して、子どもや保護者にどのように関わっていきたいかを授業内容をふまえて考える。その考えを他者が理解できる文章でまとめる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	2回のレポート課題提出(45点)。レポート課題は豊岡短期大学のレポート設題①と設題②。		
授業方法	基本的には講義形式であるが、授業内に簡単なワークも取り入れる予定である。				
授業計画	1 ガイダンス、子どもの実態に応じた発達や学びの把握				
	2 相談支援の基本について、子どもを理解する視点－環境－				
	3 子どもを理解する視点－葛藤やつまづき－、子どもを理解する方法－観察法－				
	4 子どもを理解する方法－評価－				
	5 児童虐待について				
	6 「児童虐待の現状」についてのまとめ				
	7 幼児・子ども理解とカウンセリング・マインド				
	8 幼児・子ども理解とカウンセリング・マインド－教育相談の実践－				
	9 「子ども理解」についてのまとめ				
	10 小学校における児童への心理的援助及びその保護者との相談支援				
	11 子どもの自己理解を進める技法				
	12 発達障害について				
	13 相談支援の実際－不登校やいじめ－				
	14 「カウンセリング」についてのまとめ				
	15 全体のまとめ、ふりかえり				
必須テキスト	『こどもの理解と相談支援』稲田達也他著、豊岡短期大学(2021年)				
参考文献					
担当教員の専門分野等					
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	15% %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	20% %	
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	15% %	
	他者と関わる力	20% %	専門的知識・技術	20% %	

2025年度 講義要綱

科 目	子育て支援 必修 1単位 講義		講 師	土屋 多恵子
授業概要	子育てに関わる社会環境の変化について理解するとともに、子育て支援の必要性について学ぶ。 子どもや保護者を支えるために、保育者として何が求められるのかについて学び、保育実践力を高める。			
授業目標	1.保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、 行動見本の揭示等の支援(保育相談支援)について、その特性と展開を具体的に理解する。 2.保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、 実践事例等を通して具体的に理解する。			
到達目標1	子育ての多様な課題について分析し、受容、共感をもとに、説明することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	講義内容に関する筆記試験(50点)	
到達目標2	保育者と子ども・保護者をつなぐツールや視覚的なアプローチを作成し、保育実践することができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み姿勢(10点)、 子育て支援における掲示物作成(40点)	
授業方法	ワークシート作成を伴う講義。講義と並行して、事例検討、子育て支援へのアプローチを具体的に行い、実践力を養う。			
授業計画	1 オリエンテーション「子育て支援とは?」(授業概要・目標・評価・持物等の説明)			
	2 子どもの保育とともに行う保護者支援			
	3 保護者との相互理解と信頼関係の形成			
	4 保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解			
	5 子ども・保護者が関わる場や機会			
	6 子ども及び保護者の状況・実態の把握①支援の気づき			
	7 子ども及び保護者の状況・実態の把握②支援計画・記録・評価・カンファレンス			
	8 職員間の連携・協働			
	9 社会資源の活用①自治体・関係機関や専門職との連携・協働			
	10 社会資源の活用②地域の子育て家庭に対する支援			
	11 障害のある子どもおよびその家庭に対する支援			
	12 特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援			
	13 子ども虐待の予防と対応・要保護児童の家庭に対する支援			
	14 まとめ・これからの子育て支援			
	15 学期末試験			
必須テキスト				
参考文献	授業内で適宜紹介。			
担当教員の 専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。幼稚園教諭を経て、幼児教室を主宰。 主任児童委員として地域における支援の実際を交えながら、保育者として必要な知識・技術を修得する授業を行う。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	20 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	20 %

2025年度 講義要綱

科 目	保育実践演習		必修 2単位 講義	講 師	鈴木 八重子
授業概要	保育現場に出た時に、子どもを保育する専門家とし技能を高めることを目標として、自身の興味あるテーマについて調べ、それをもとに自分の考えを明確に持ち発表を行う。発表をお互いに聞き合い、学び合い、保育現場に生かしていくようにする。				
授業目標	1. 指定保育士養成施設における教育課程の全体を通して、保育士として必要な保育に関する専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたか、自らの学びを振り返り把握する。 2. 保育実習等を通じた自らの体験や収集した情報に基づき、保育に関する現代的課題についての現状を分析し、その課題への対応として保育士、保育の現場、地域、社会に求められることは何か、多様な視点から考察する力を習得する。 3. 1及び2を踏まえ、自己の課題を明確化し、保育の実践に際して必要となる基礎的な資質・能力の定着をさせる。				
到達目標1	興味のあるテーマについて、調べたり、分析したりして、自分の考えを持ち、保育に関する物事に主体的に関わり、わかりやすく発表できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業課題1中間発表内容と提出(20点)+授業課題2本発表内容と提出(20点)+発表(10点)=50点		
到達目標2	今までの学習で身につけた学びをレポートすることにより、保育の理解へと発展させることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	レポート下書きの内容と提出 (30点)+試験解答下書き内容と提出 (20点)=50点		
授業方法	自分が興味のあることについて調べる、個別指導、発表をする。				
授業計画	1 オリエンテーション～保育実践演習の進め方～				
	2 自身の関心を明確にしテーマを設定する				
	3 設定したテーマの調査(1)				
	4 設定したテーマの調査(2)				
	5 レポート解説と作成				
	6 レポート作成と・下書き提出				
	7 中間発表資料作成				
	8 中間発表				
	9 試験問題解説・中間発表振り返り				
	10 試験解答作成・提出				
	11 本発表スライド作成・発表準備				
	12 本発表スライド作成及び発表準備・試験勉強				
	13 短大試験				
	14 発表(1)				
	15 発表(2)				
必須テキスト	短大配本テキスト「保育・教職実践演習」				
参考文献	「幼稚園教育要領解説」 「保育所保育指針解説」				
担当教員の専門分野等	実務経験のある教員による授業 幼稚園教諭または保育士としての実務経験があり、幼稚園教諭及び保育士資格をもつ教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10% %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	20% %	
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	20% %	
	他者と関わる力	20% %	専門的知識・技術	20% %	

2025年度 講義要綱

科 目	子どもと遊び 選択必修 2単位 講義		講 師	森 麻美
授業概要	保育現場を想定し、実際に多様な遊びを経験しながら、その展開方法を学ぶ。 また、さまざまな遊びについて考えを巡らすことで、表現力・共感力・即興力を養う。			
授業目標	①楽しく身体を動かしながら、表現力・共感力・即興力を高める ②子どもと共に遊びをデザインしていく過程を理解し、自ら遊びを構想する ※「遊び」は「子どもの健康な身体づくり」につながっていることを学ぶ			
到達目標1	①保育現場を想定し、安全に留意しながら、「遊び」を楽しもうとすることができる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み50点	
到達目標2	②自ら遊びをデザインし、その遊び方と留意点を簡潔に説明できる ※遊びには、運動効果や育つ力が含まれていることが理解できる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み/実演30点・リアクションペーパー20点	
授業方法	実技・グループワークを中心に授業を展開する 教科書を活用し、遊びの考察・構想をする			
授業計画	1 オリエンテーション・手遊び・リズム遊び			
	2 手遊び・リズムたいそう			
	3 手遊び・ふれあい遊びパート1			
	4 手遊び・ふれあい遊びパート2			
	5 季節のうたであそぼう・オニごっこ遊び・健康な身体づくりについて			
	6 季節のうたであそぼう・オニごっこ遊び・多様な動きの引き出し方について			
	7 遊びをデザインする～リアクションペーパーの書き方について～			
	8 オリジナル遊びで身体を動かそうパート1			
	9 オリジナル遊びで身体を動かそうパート2・ボール遊び			
	10 遊びをデザインする(ボール)～遊びの組み立てポイント～(オンライン)			
	11 ボールあそび(実演)			
	12 タオル遊び・遊びをデザインする(オンライン)			
	13 タオル遊び(実演)			
	14 なわ遊び(グループワーク)			
	15 振り返り・まとめ			
必須テキスト	元気モリモリ森麻美の運動あそび(鈴木出版)			
参考文献	授業中に適宜紹介する			
担当教員の専門分野等	11年間幼稚園専属の運動あそび講師として勤務。退職後、キッズと親子のたいそう教室「AMINASTIC」を開業し代表を務める。現在10園(0～5歳児)で運動遊び講師を担当。また、全国で保育士研修会や親子イベントなどを通し、身体を動かす楽しさを伝え続けている。チャイルドカウンセラー。アスク・ミュージック所属。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10% %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10% %
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	20% %
	他者と関わる力	30% %	専門的知識・技術	20% %

2025年度 講義要綱

科 目	子どもの食と栄養実習 選択必修 1単位 講義		講 師	大野 康子
授業概要	・子どもの発育・発達過程における食生活と栄養の特性について学ぶ。 ・学んだ知識を保育の実践に活かし、具体的な食生活の支援及び、食育の場で活用できる力を養う。 ・特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解を深める。			
授業目標	・健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する。 ・保育者として子どもの精神的、身体的状況、食の環境等に配慮して食の支援を行えるように、多角的観点から考え対応できる力を身につける。			
到達目標1	調理実習を通して子どもの栄養と食事提供の支援について説明することが出来る。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(20点)・講義内容に関する筆記試験(30点)→合計(50点)	
到達目標2	子どもの食生活の問題について学び、改善するための食育アプローチを提案することが出来る。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	討論への貢献度(20点)、課題の作成、発表(30点)→合計50点	
授業方法	テキストを使用した講義及び調理実習			
授業計画	1 ・オリエンテーション(授業概要・目標・評価・持ち物等の説明)・子どもの健康と食生活について			
	2 栄養素の基礎知識 5大栄養素について			
	3 幼児食の献立と調理方法(幼児に食事提供する際の注意点)			
	4 子どもの発育・発達と食生活(乳汁について)			
	5 乳児期栄養【調乳実習】			
	6 子どもの発育・発達と食生活(離乳食について)			
	7 離乳期栄養【離乳食実習(初期～完了期)】			
	8 子どもの発育・発達と食生活(幼児食について)			
	9 幼児期栄養【幼児食実習】			
	10 特別な配慮を要する子どもの食と栄養(アレルギー食の対応)			
	11 食育アクティビティ体験 実習			
	12 特別な配慮を要する子どもの食と栄養(病児、宗教食への対応)			
	13 食育アクティビティ計画			
	14 食育アクティビティの発表			
	15 まとめ・筆記試験			
必須テキスト	子どもの食と栄養演習書 医歯薬出版			
参考文献	授業中に紹介、適宜プリントして配布する。			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員の授業」に該当。 長年保育現場(幼稚園、0.1.2歳保育所、病児保育)に携わる、現在は幼稚園、保育園での食育アクティビティ講師、養育者や保育者向けの研修講師として活動。幼児の食行動について研究を進めている。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	30 %

2025年度 講義要綱

科 目	保育教材研究		選択必修 2単位 講義	講 師	なかむら しんいちろう
授業概要	これまで獲得した基礎的な造形技法や、実習における実践的視点を踏まえ、多種多様な道具材料を工夫して課題制作を行う。 また、現場での子どもの造形活動における認識を深めるために、自ら「失敗を恐れず遊びの中で想像力を養う子どもの造形活動」を体験する。 これにより、造形活動の指導のポイントや子どもの表現活動の援助について学ぶ。 または補講期間に連続コマを設定し、共同で巨大な壁面制作を予定。				
授業目標	子どもの創作活動を追体験し、想像力を広げる。将来の現場実践のため、教材について視野を広げる。				
到達目標1	授業に参加し、保育教材としての造形を理解する。そして授業時間内に製作できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への参加。取り組んだ内容、回数で評価する(常識的に考えて相応しくない受講態度の場合、評価できない) 45点+創意工夫5点		
到達目標2	将来、子どもの遊びを援助するため、幼児の絵画を理解し、造形技術を習得、実践できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	作品提出(作品を撮影しteamsに画像を提出。提出回数やコメント、締切日厳守で評価する 45点 +その他 ①グループワーク等での周囲との協力 ②制作後の清掃・片付け等の社会的マナー ③期日までの課題提出、出席状況、課題提出状況等の自己管理能力等 5点		
授業方法	1.実技 2.座学 (基本毎回課題提出)* 社会情勢や進行状況により内容や順番を適宜変更				
授業計画	1 前提講義:講師挨拶、授業受講のルール、コウモリ、クロネコの制作 2 お面づくり:画用紙等 3 絵画の援助:講義:レポート提出:苦手な子への援助等(オンライン) 4 衣装づくり:ポリ袋(進行状況によっては他の授業をなくし2週間行う) 5 双六制作 6 素材研究:ボンドに絵の具を混ぜ、形を整えるまたは、アルミホイル:粘土のように自由な形を作る 7 レッジョの座学:講義:笑い顔と泣き顔 8 レッジョの実践①:屋外活動:自然物で絵画制作 9 感触を楽しむ:講義:レポート提出:泥遊び等(オンライン) 10 フィンガーペイントによる絵画制作 11 講義形式を予定:内容未定、または巨大壁面制作① 12 紙の加工:はらぺこあおむし 13 イラスト練習:簡単な絵の描き方:季節の絵 14 レッジョの実践②:光を用いた作品制作、または巨大壁面制作② 15 レッジョの実践③:リサイクル廃材を用いた制作および集団遊び、または巨大壁面制作③				
必須テキスト	特に指定なし				
参考文献	適宜紹介する				
担当教員の専門分野等	加藤ふじこ:絵本作家、イラストレーター なかむらしんいちろう:絵本作家、イラストレーター				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %	

2025年度 講義要綱

科 目	保育実習Ⅲ		選択必修 2単位 外部実習	講 師	実習指導授業担当
授業概要	各現場の指導プログラム、計画に従う				
授業目標	1. 既習の教科目や保育実習の経験を踏まえ、児童福祉施設等(保育所以外)の役割や機能について実践を通して、理解する。 2. 家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得する。 3. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 4. 実習における自己の課題を理解する。				
到達目標1	1. 児童福祉施設等(保育所以外)の役割と機能、利用者ニーズと支援の実際を理解する 2. 個人の支援計画を理解し、多様な専門職との協働、業務内容、職業倫理を理解する 3. 現場における学びを記録、考察し、自己課題を明確化できる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)		「実習態度」「対象者の理解」「職員としての資質」の観点に基づく、現場職員及び実習指導担当教員による総合評価	
到達目標2		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)			
授業方法	各施設職員の指導の下、現場で実務経験をする				
授業計画	1 ①現場職員による支援実践を観察し、活動に参加することを通して、支援全般について知る ②子ども・利用者の観察、関わりを通して、対象者への理解を深める ③実習記録を作成し、現場職員の指導を受ける				
	2				
	3				
	4				
	5				
	6				
	7				
	8				
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
必須テキスト					
参考文献					
担当教員の専門分野等					
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	%	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	%	
	社会人としての基本	%	主体性 素直 思いやり	%	
	他者と関わる力	%	専門的知識・技術	%	

2025年度 講義要綱

科 目	保育実習指導Ⅱ		選択必修 1単位 講義	講 師	遠藤 祐太郎
授業概要	・保育実習Ⅰについて、グループディスカッション・個人面談・実習体験発表を通じて振り返り、評価・反省に基づいて自己課題を理解し必要な学習に取り組む。 ・保育実習Ⅱで臨む部分実習、責任実習のための準備を行う。				
授業目標	1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。 2. 実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。 4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。				
到達目標1	責任実習、部分実習のために保育教材の製作および指導案の立案が出来る。		到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	指導案提出(50点) 提出物は期限を守ること。	
到達目標2	模擬保育の実践発表を行うことが出来る。		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	模擬保育発表(50点)	
授業方法	・講義、演習(グループワーク)および実技・発表 ・保育実習Ⅰの振り返りとともに模擬保育の実践、責任実習指導案を完成させるための自己学習口 ・この授業は欠席は不可となります。 ※無断欠席、遅刻不可(減点対象) ※実習わくわくタイムの参加は必須とする。				
授業計画	1 オリエンテーション(保育実習Ⅱで求められるもの)				
	2 保育実習Ⅰの振り返り、実習課題の検討				
	3 模擬保育に向けて 指導計画立案				
	4 模擬保育実践①				
	5 全日指導計画立案練習				
	6 模擬保育実践②				
	7 主活動指導計画立案(製作活動)				
	8 主活動指導計画立案(ゲーム、運動遊び)				
	9 模擬保育実践③				
	10 ゲストスピーカー(詳細未定)				
	11 オリエンテーションに向けて				
	12 実習日誌の具体的な記入方法				
	13 考察の視点と深め方				
	14 実習前後のまとめ				
	15 G2・G3合同 実習わくわくタイム				
必須テキスト	特に指定しない				
参考文献	その都度紹介する。補助教材としてプリントを使用する。 保育実習指導Ⅰaで使用した『千春と大吾の保育実習ストーリー』萌文書林				
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当する。研究領域は、保育史、保育思想、保育カリキュラム。著書に「0・1・2歳児の連絡帳選べる書き方&文例集」(チャイルド本社)の他、保育雑誌の連載、Web記事の執筆なども行う。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20% %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10% %	
	社会人としての基本	20% %	主体性 素直 思いやり	10% %	
	他者と関わる力	10% %	専門的知識・技術	30% %	

2025年度 講義要綱

科 目	保育実習指導Ⅲ		選択必修 1単位 講義	講 師	
授業概要	2年次で経験した保育所実習、施設実習の振り返りと反省をし、次回の実習に向け課題を明確にして準備を整える。				
授業目標	1. 施設における保育者の役割、さらには保育者の専門性について理解する 2. 対象の状態を適切に理解し、対応、関わり、支援計画の立案ができるよう学ぶ 3. 自らの課題を明確にする				
到達目標1	保育実習Ⅰについて整理し、他者に発表を通して伝えることができる		到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	実習報告(20点)、対象者・支援特徴の整理(30点)	
到達目標2	保育実習Ⅲに向けた、自らの目標、課題の整理ができる		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	自らの目標、課題の言語化(20点)、対象者・支援特徴の整理(30点)	
授業方法	・個々人の実習報告をもとにディスカッション、指導を行う ・各施設の現場の先生をお招きした講義や、現場見学等、体験的に学ぶ				
授業計画	1 授業概要、授業の進め方、目標、評価等の説明				
	2 自らの実習経験から、学びや課題を整理し、次の実習の準備へと繋げる				
	3 自らの実習経験から、学びや課題を整理し、次の実習の準備へと繋げる				
	4 自らの実習経験から、学びや課題を整理し、次の実習の準備へと繋げる				
	5 自らの実習経験から、学びや課題を整理し、次の実習の準備へと繋げる				
	6 自らの実習経験を資料にまとめて発表する 他者の発表を聞き、経験を共有するなかで視野を広げる				
	7 自らの実習経験を資料にまとめて発表する 他者の発表を聞き、経験を共有するなかで視野を広げる				
	8 自らの実習経験を資料にまとめて発表する 他者の発表を聞き、経験を共有するなかで視野を広げる				
	9 自らの実習経験を資料にまとめて発表する 他者の発表を聞き、経験を共有するなかで視野を広げる				
	10 自らの実習経験を資料にまとめて発表する 他者の発表を聞き、経験を共有するなかで視野を広げる				
	11 自らの実習経験を資料にまとめて発表する 他者の発表を聞き、経験を共有するなかで視野を広げる				
	12 保育実習Ⅲにむけた具体的準備を進める				
	13 保育実習Ⅲにむけた具体的準備を進める				
	14 保育実習Ⅲにむけた具体的準備を進める				
	15 実習準備の仕上げ。 実習への備えを万全なものとする。				
必須テキスト	特になし				
参考文献	授業内で適宜示す				
担当教員の専門分野等	専門は心理学です。各現場の人々や、そこで生じる事象について『解釈する』、フィールドワークが主な専門。児童養護施設や、障害児療育、心理臨床の場など様々な現場に入ってきました。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	5 %	主体性 素直 思いやり	5 %	
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	30 %	

2025年度 講義要綱

科 目	コミュニケーションⅢ		選択 2単位 講義	講 師	東郷 結香
授業概要	保育・福祉現場で働くことをイメージしながら、コミュニケーション方法について学び、協働の態度を養う。 就職相談室のガイダンスに基づき社会に出る準備を整えていく				
授業目標	・自己洞察力を養い、安定した人間関係を養いコミュニケーション能力を身に付けることができる。 ・働く上で求められるコミュニケーション方法について自ら考えることができる。 ・コミュニケーションの授業を通して社会に出る準備を整えて就職を目指すことができる。				
到達目標1	社会人として必要な常識をもって卒業後の将来に向けた具体的な行動ができる		到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業内プリント記入と提出30％ 授業態度20％	
到達目標2	短大のレポート作成、試験勉強、就職相談室の課題に自ら取り組むことができる。		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	提出物50％	
授業方法					
授業計画	1				
	2				
	3				
	4				
	5				
	6				
	7				
	8				
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
	16				
	17				
	18				
	19				
	20				
	21				
	22				
	23				
	24				
	25				
	26				
	27				
	28				
	29				
	30				
必須テキスト	特に指定なし				
参考文献					
担当教員の専門分野等	専門は心理学です。児童養護施設や、障害児療育、カウンセリングなど様々な支援現場に入ってきました。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	25 %	主体性 素直 思いやり	20 %	
	他者と関わる力	25 %	専門的知識・技術	10 %	

2025年度 講義要綱

科 目	ゼミナールⅠ		選択 講義	講 師	佐藤 博美
授業概要	グローバル(広い視野)を持ち、未来の保育現場の多様性を理解し、それに対応できる保育士のスキルを身につける。				
授業目標	体験学習を通して、広い視野を持つことができる。 積極的な学びを通して、様々な考え方、文化、言葉に触れ、多様性を自分なりに説明する事ができる。				
到達目標1	いろいろな国の言葉や文化など、体験を通して理解を深める。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業の取り組み度(20点) + 課題(30点)		
到達目標2	遊びや外部見学を通して、様々な保育や考え方を体験する。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業の取り組み度(20点) + 課題(30点)		
授業方法	自分の興味のある国内、国外の文化や保育を調べ、インプットとアウトプットを行う事で学びを深める。				
授業計画	1 授業説明と自分の学びの学びたい事を考える				
	2 海外絵本に触れる事で、それぞれの国の良さを理解する				
	3 外部見学を通して、視野を広げる				
	4 外部見学を通して、視野を広げる				
	5 身近な海外企業の調べ学習を通して、海外文化について考える				
	6 身近な海外企業の調べ学習を通して、海外文化について考える				
	7 身近な海外企業の調べ学習を通して、海外文化について考える				
	8 調べた事を自分で体感することで学びを深める				
	9 サンフランシスコの学校事情を知る事により、自身の経験を軸に様々な考え方があることを知る				
	10 自分の学びたい事を自分で考え自分で調べる				
	11 自分の学びたい事を自分で考え自分で調べる				
	12 自分の学びたい事を自分で考え自分で調べる				
	13 自分の学びたい事を自分で考え自分で調べる				
	14 自分の学びを大切にし、自身の力で探求した事に自信を持つ				
	15 前期で学んだ事をふりかえり、後期への学びに活かす				
必須テキスト	なし				
参考文献					
担当教員の 専門分野等	海外の幼稚園、保育園に勤務経験ある教員による授業				
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	20 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	20 %	

2025年度 講義要綱

科 目	ゼミナールⅠ		選択 講義	講 師	東郷 結香
授業概要	保育士はとても職域の広い専門職です。沢山の現場で活躍ができます。保育所、学童クラブ、児童館、児童相談所、乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設、障害児者入所施設、児童発達支援センター、医療的ケア児施設…等。多くの現場を知り、経験してみましょう。また、各現場にいる人、子ども達の心の動きや発達について、考えてみましょう。				
授業目標	1. 多くの現場に出向き、支援の実際に触れて、興味を持つ 2. 体験的に理解、考察し、自ら目指す支援者像を意識化する				
到達目標1	多くの現場に出向き、支援の実際に触れ、興味を深めることができる		到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	活動プログラムの協議と組み立て(25点)、活動への参加(25点)	
到達目標2	体験的に理解、考察し、自ら目指す支援者像を意識化して、言語化できる		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	現場経験の発表(30点)、発表準備への取り組み姿勢(20点)	
授業方法	講義や各自発表もありますが、何よりも実際に多くの現場に見学等に出向き、様々な子ども達、支援者(保育士)の方々との出会いを通して、体験的に学んでいきます。				
授業計画	1 本コースにて何をどのように取り組むのか、みんなで協議して決めていきます				
	2 どこに行って何をしたいのか、自分自身の希望を主体的に考えます				
	3 具体的に準備していきましょう				
	4 具体的に準備していきましょう				
	5 具体的に準備していきましょう				
	6 実際の現場に触れ、体験的に学んでいきます				
	7 実際の現場に触れ、体験的に学んでいきます				
	8 現場から感じこと、学んだことを整理していきます				
	9 施設実習経験を振り返り、学んだことを整理、言語化して発表してみましょう				
	10 施設実習経験を振り返り、学んだことを整理、言語化して発表してみましょう				
	11 施設実習経験を振り返り、学んだことを整理、言語化して発表してみましょう				
	12 実際の現場に触れ、体験的に学んでいきます				
	13 実際の現場に触れ、体験的に学んでいきます				
	14 実際の現場に触れ、体験的に学んでいきます				
	15 現場から感じこと、学んだことを整理していきます				
必須テキスト	特に指定なし				
参考文献					
担当教員の専門分野等	専門は心理学です。各現場の人々や、そこで生じる事象について『解釈する』、フィールドワークが主な専門。児童養護施設や、障害児療育、心理臨床の場など様々な現場に入ってきました。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	30 %	

2025年度 講義要綱

科 目	ゼミナールⅠ		選択 講義	講 師	なかむら しんいちろう
授業概要	「おもちゃ」「造形あそび」をテーマに各自が自主的に研究活動等を行う。 ・施設見学、校外学習などは、事前に日程を相談した上で、連続(1,2,3限)や授業日以外で実施する場合がある。その場合、他の回を休講にして振り替える。また他のゼミナールのコースとの合同授業等を行う場合がある。 「手作りおもちゃコンテスト」に向けて制作を行う。				
授業目標	1.おもちゃの特性を学ぶ。 2.造形あそびの特性を学ぶ。 3.実際の活動を通し理解を深める。 4.「手作りおもちゃコンテスト」に応募する。				
到達目標1	<おもちゃ> おもちゃの意義や特徴を理解し説明し実践できる。 メンバーと協力し、手作りおもちゃコンテストに応募する。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)		手作りおもちゃコンテストに向けた制作へ、毎回、熱心な姿勢で取り組むことができた。 メンバー同士が円滑にコミュニケーションを取り共同作業を行うことができた。 準備や片づけ、清掃等を行うことができた。 課題提出を提出することができた。 リアクションペーパーや課題のある場合は期日までに提出。課題提出はteamsを使用。 (50点)	
到達目標2	<造形あそび> 実習や現場で役立つ造形あそびを実施できる。 手作りおもちゃコンテストに向けた作品を完成させ応募する。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)		<造形あそび> これからの実習や、将来の現場で役立つ造形力を身につけ、実行できた。 手作りおもちゃコンテストに向けた作品を完成させ応募できた。 (50点)	
授業方法	1.実技 2.座学 3.課題作成 4.施設見学・校外学習 5.大型遊具等の共同制作 6.レポート作成				
授業計画	1 前提講義:講師挨拶、授業受講のルール、おもちゃ、造形遊び 2 おもちゃ、造形遊び 3 おもちゃ、造形遊び 4 おもちゃ、造形遊び 5 おもちゃ、造形遊び 6 おもちゃ、造形遊び 7 おもちゃ、造形遊び 8 おもちゃ、造形遊び 9 おもちゃ、造形遊び 10 おもちゃ、造形遊び 11 おもちゃ、造形遊び 12 おもちゃ、造形遊び 13 おもちゃ、造形遊び 14 おもちゃ、造形遊び 15 おもちゃ、造形遊び				
必須テキスト	特に指定なし、必要に応じて適宜紹介する				
参考文献	特に指定なし、必要に応じて適宜紹介する				
担当教員の専門分野等	なかむらしんいちろう:イラストレーター、絵本作家				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	20 %	
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	20 %	
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	20 %	

2025年度 講義要綱

科 目	ゼミナールⅡ		選択 講義	講 師	佐藤 博美
授業概要	グローバル(広い視野)を持ち、未来の保育現場の多様性を理解し、それに対応できる保育士のスキルを身につける。				
授業目標	体験学習を通して、広い視野を持つことができる。 積極的な学びを通して、様々な考え方、文化、言葉に触れ、多様性を自分なりに説明する事ができる。				
到達目標1	いろいろな国の言葉や文化など、体験を通して理解を深める。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業の取り組み度(20点) + 課題(30点)		
到達目標2	外部見学や遊びを通して、様々な保育や考え方を体験する。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業の取り組み度(20点) + 課題(30点)		
授業方法	自分の興味のある国内、国外の文化や保育を調べ、インプットとアウトプットを行う事で学びを深める。				
授業計画	1 授業説明と本人の学びたいことを共有				
	2 身近な行事の意味や由来を調べ、自分達の保育への取入れ方を考える				
	3 身近な行事の意味や由来を調べ、自分達の保育への取入れ方を考える				
	4 身近な行事の意味や由来を調べ、自分達の保育への取入れ方を考える				
	5 身近な行事の意味や由来を調べ、自分達の保育への取入れ方を考える				
	6 ハロウィンの意味や由来を知り、自分達でイベントを考える				
	7 海外の文化に触れ、自身の興味を持った事を調べる				
	8 海外の文化に触れ、自身の興味を持った事を調べる				
	9 海外の文化に触れ、自身の興味を持った事を調べる				
	10 海外の文化に触れ、自身の興味を持った事を調べる				
	11 海外の遊びについて考える				
	12 ゲストスピーカーによる海外の遊びを経験する				
	13 クリスマスの意味や由来を調べる				
	14 クリスマスの意味を知り、保育への取入れ方を考える				
	15 広い視野を持つ事ができた事を確認し、今後の保育にどのように活かす事ができるか考える				
必須テキスト	なし				
参考文献	授業内で紹介				
担当教員の 専門分野等	海外の保育園の勤務経験ある教員による授業				
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	20 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	20 %	

2025年度 講義要綱

科 目	ゼミナールⅡ		選択 講義	講 師	東郷 結香
授業概要	保育士はとても職域の広い専門職です。前期に、実際に体験した現場経験をもとに、さらに興味を広げ、深めていきましょう。多くの現場を知り、それぞれの現場の「違い」や、支援の「特徴」に気づきましょう。その中で自分自身の興味や適性について、考えていきます。				
授業目標	1. 各現場の「違い」や、支援の「特徴」を知る 2. そのうえで自らの興味や適性について、明確化していく				
到達目標1	・各現場の「違い」や、支援の「特徴」を言語化できる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	発表内容 (50点)		
到達目標2	自らの興味や適性について、明確化し、言語化できる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	自らの進路選択に対しての動き (25点)、自らの進路選択にあたる言語化 (25点)		
授業方法	講義や各自発表もありますが、何よりも実際に多くの現場に見学等に出向き、様々な子ども達、支援者(保育士)の方々との出会いを通して、体験的に学んでいきます。				
授業計画	1 後期には何をどのように取り組むのか、みんなで協議して決めていきます				
	2 互いの状況を聞く中で、自らの状況や考えを整理				
	3 施設実習経験を振り返り、学んだことを整理、言語化して発表してみましょう				
	4 施設実習経験を振り返り、学んだことを整理、言語化して発表してみましょう				
	5 施設実習経験を振り返り、学んだことを整理、言語化して発表してみましょう				
	6 具体的に準備していきましょう				
	7 実際の現場に触れ、体験的に学んでいきます				
	8 実際の現場に触れ、体験的に学んでいきます				
	9 実際の現場に触れ、体験的に学んでいきます				
	10 実際の現場に触れ、体験的に学んでいきます				
	11 実際の現場に触れ、体験的に学んでいきます				
	12 実際の現場に触れ、体験的に学んでいきます				
	13 実際の現場に触れ、体験的に学んでいきます				
	14 実際の現場に触れ、体験的に学んでいきます				
	15 現場から感じこと、学んだことを整理していきます				
必須テキスト	特に指定なし				
参考文献	適宜、授業内で紹介				
担当教員の 専門分野等	専門は心理学です。各現場の人々や、そこで生じる事象について『解釈する』、フィールドワークが主な専門。児童養護施設や、障害児療育、心理臨床の場など様々な現場に入ってきました。				
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	30 %	

2025年度 講義要綱

科 目	ゼミナールⅡ		選択 講義	講 師	なかむらしんいちろう
授業概要	「おもちゃ」「造形あそび」をテーマに各自が自主的に研究活動等を行う。 ・施設見学、校外学習などは、事前に日程を相談した上で、連続(1,2,3限)や授業日以外、補講期間で実施する場合がある。その場合、他の回を休講にして振り替える。また他のゼミナールのコースとの合同授業等を行う場合がある。おもちゃ美術館は補講期間に連続(1,2,3限)で見学予定。				
授業目標	1.おもちゃの特性を学ぶ。 2.造形あそびの特性を学ぶ。 3.実際の活動を通し理解を深める。				
到達目標1	<おもちゃ> おもちゃの意義や特徴を理解し説明し実践できる。 施設見学等に行き、振り返り課題を提出できる。		到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	おもちゃ制作への取り組み。提出はteamsを使用。 授業へ熱心に取り組むことができた。 施設見学等に行き、振り返り課題を提出できた。 リアクションペーパーや課題のある場合は期日までに提出できた。 (50点)	
到達目標2	<造形あそび> 実習や現場で役立つ造形あそびを実施できる。 施設見学等に行き、振り返り課題を提出できる。		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	おもちゃ制作への取り組み。提出はteamsを使用。 授業へ熱心に取り組むことができた。 施設見学等に行き、振り返り課題を提出できた。 リアクションペーパーや課題のある場合は期日までに提出できた。 (50点)	
授業方法	1.実技 2.座学 3.課題作成 4.施設見学・校外学習 5.大型遊具等の共同制作 6.レポート作成				
授業計画	1 前提講義:講師挨拶、授業受講のルール、おもちゃ、造形遊び				
	2 おもちゃ、造形遊び				
	3 おもちゃ、造形遊び				
	4 おもちゃ、造形遊び				
	5 おもちゃ、造形遊び				
	6 おもちゃ、造形遊び				
	7 おもちゃ、造形遊び				
	8 おもちゃ、造形遊び				
	9 おもちゃ、造形遊び				
	10 おもちゃ、造形遊び				
	11 おもちゃ、造形遊び				
	12 おもちゃ、造形遊び				
	13 おもちゃ、造形遊び				
	14 おもちゃ、造形遊び				
	15 おもちゃ、造形遊び				
必須テキスト	特に指定なし、必要に応じて適宜紹介する				
参考文献	特に指定なし、必要に応じて適宜紹介する				
担当教員の 専門分野等	なかむらしんいちろう:イラストレーター、絵本作家				
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	20 %	
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	20 %	
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	20 %	

2025年度 講義要綱

科 目	保育カウンセリング概論 選択 1単位 講義		講 師	橋本 千鶴
授業概要	子どもの心身の発達について学び、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、それに基づく適切な関わり方を考える。保育実践において、信頼関係を築いたうえで、子どもと保護者に寄り添う支援をするために必要なカウンセリングの基礎的知識や技能を身につける。			
授業目標	1. 子どもの心身の発達についての知識と理解を基盤として、保育者としての適切な関わり方を考える。 2. 子どもと保護者を支援するために必要なカウンセリングの基礎的知識や技能を習得する。 3. 子どもを理解するための具体的な方法や支援の実際を理解する。			
到達目標1	子どもの心身の発達についての知識と理解に基づき、保育者としての適切な援助や態度を具体的に説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(10点)、レポート・リアクションペーパー(40点)→合計50点	
到達目標2	保育カウンセリングに求められる基礎的知識や技能を身につけ、実技に活かすことができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	実技への取り組み度(15点)、授業内のグループ討論や実技に関する振り返り(15点)、まとめレポート(20点)→合計50点	
授業方法	保育者に求められる適切な支援について、グループワーク・ディスカッション等の体験や、映像視聴・事例検討などから実践的に学ぶ。			
授業計画	1 オリエンテーション(授業概要・目標・評価など)・カウンセリングとは			
	2 カウンセリングマインド・現代の子どもを取り巻く環境の問題			
	3 保育者の基本的姿勢と子ども理解(1)(子どもとの信頼関係の構築)			
	4 保育者の基本的姿勢と子ども理解(2)(観察法)			
	5 心理教育的アセスメント(1)(観察法・面接法・質問紙調査法・検査法・作品法)			
	6 心理教育的アセスメント(2)(交流分析)			
	7 カウンセリングの理論と方法(1)(言語的技法)			
	8 カウンセリングの理論と方法(2)(非言語的技法)			
	9 教育方法の新たな展開(ソーシャルスキルトレーニング)			
	10 保育カウンセリングの実際(1)(けんかやいざこざ)			
	11 保育カウンセリングの実際(2)(保護者支援)			
	12 保育カウンセリングの実際(3)(発達障害のある子への支援①ADHDとSST)			
	13 保育カウンセリングの実際(4)(発達障害のある子への支援②ASD・専門機関との連携)			
	14 保育カウンセリングの実際(5)(保護者との面接の演習)			
	15 まとめ(グループワークによる保育カンファレンス→レポート)			
必須テキスト	特になし。			
参考文献	大野精一[編著]長谷部比呂美・橋本千鶴[著]「教師・保育者のための教育相談」(萌文書林)2017年 他、授業で適宜紹介			
担当教員の専門分野等	小学校教員として長く勤務。大学院でカウンセリングを専攻。日本カウンセリング学会認定カウンセラー。大学等で、教育相談(カウンセリング)・幼児と言葉・保育内容指導法(言葉)等の授業を担当。「教師・保育者のための教育相談」(共著・萌文書林)を出版。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20% %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10% %
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	15% %
	他者と関わる力	20% %	専門的知識・技術	25% %

2025年度 講義要綱

科 目	教育実習指導Ⅱ		選択 1単位 講義	講 師	石原 成
授業概要	前回の実習の学びをもとに幼稚園教諭にふさわしい態度や心構え、記録の取り方や指導計画の立て方を学ぶ。				
授業目標	・十分な教材研究を行い、部分実習指導計画案の立案の仕方を理解する。 ・幼児の実態を捉え安全面と環境構成に留意した全日指導計画案の立案の仕方を理解する。				
到達目標1	・実習での観察や記録の仕方を理解し、幼児の実態を捉えることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	課題内容(30点)+課題提出期限の厳守(20点)=50点		
到達目標2	・立案した指導計画を実践するための教材研究や教師の援助を考えることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	最終試験「全日指導案記入」50点		
授業方法	指導計画の立案、実践、振り返りを行う。またテキストや視聴覚教材を用いて環境構成、ねらいと教師の援助の読み取り等を行う。				
授業計画	1 教育実習Ⅱのねらいと内容の理解、実習後半への見通し				
	2 教育実習目標の設定、実習関係必要書類の確認				
	3 前半実習簿振り返りから指導案立案(1)				
	4 前半実習簿振り返りから指導案立案(2)				
	5 指導計画案立案 主活動 ゲーム①				
	6 指導計画案立案 主活動 ゲーム②				
	7 指導計画案 各項目確認 幼児の実態・教師の援助・実習生の気づき				
	8 全日指導計画案(1)一日の前半				
	9 全日指導計画案(2)一日の後半				
	10 試験「全日実習指導案」				
	11 実習直前最終確認				
	12 教育実習について振り返りを行い、園からの評価をもとに指導を受ける(1)				
	13 教育実習について振り返りを行い、園からの評価をもとに指導を受ける(2)				
	14 教育実習について振り返りを行い、園からの評価をもとに指導を受ける(3)				
	15 教育実習について振り返りを行い、園からの評価をもとに指導を受ける(4)				
必須テキスト					
参考文献	幼稚園教育要領 豊岡短大テキスト				
担当教員の 専門分野等	幼稚園教諭としての実務経験があり、幼稚園教諭免許状をもつ教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。				
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	20 %	

2025年度 講義要綱

科 目	手話 選択 1単位 講義		講 師	乙川 智子
授業概要	手話を学ぶ事によって、手話の出来る保育士の養成並びにコミュニケーション能力の向上、又聴覚障害者に対する理解と対応の仕方を学ぶ			
授業目標	手話を覚え、相手に伝える楽しさ、喜びを感じ、コミュニケーション力を身に付け、又聴覚障害者の生活や福祉制度を学ぶ。			
到達目標1	手話を通して聴覚障害者ならびに福祉制度を理解する。手話に慣れ親しむ。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組みの評価30点	
到達目標2	保育士になったときに覚えた手話で聴覚障害者と会話できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	定期試験(技術と福祉問題) 70点	
授業方法	手話を学ぶ為にまず単語を覚え自己紹介が出来る様にして、その覚えた手話を使って聴覚障害者の方と楽しく交流学习をする。			
授業計画	1 〈技術〉手話とは 身振りとの関連性			
	2 〈技術〉自己紹介／〈理論〉手話の基礎知識 I			
	3 〈技術〉疑問文6W2H 名前・時の表現／〈理論〉手話の基礎知識 II			
	4 〈技術〉疑問文6W2H 家族・趣味／〈理論〉聴覚障害者の基礎知識 I			
	5 〈技術〉6W2H 住所／〈理論〉聴覚障害者の基礎知識 II			
	6 〈技術〉聴覚障害者との交流学习(1)／〈理論〉聴覚障害者の生活 I			
	7 〈技術〉疑問文6W2H 仕事・アルバイト先／〈理論〉聴覚障害者の生活 II			
	8 〈技術〉疑問文6W2H 保育園で／〈理論〉福祉制度 I			
	9 〈技術〉会話練習(1)／〈理論〉福祉制度 II			
	10 〈技術〉会話練習(2)			
	11 〈技術〉自己紹介のまとめ(1)			
	12 〈技術〉自己紹介のまとめ(2)			
	13 試験			
	14 ふりかえり、まとめ			
	15 聴覚障害者との交流学习(2)			
必須テキスト	東京都聴覚障害者連盟『手にことばを 初級用』			
参考文献	適宜プリントにして配布します。			
担当教員の専門分野等	実務経験のある教員による授業。長年にわたって(30年以上)手話通訳並びに自治体やカルチャーセンター依頼による手話指導の多くの経験あり。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	20 %
	社会人としての基本	5 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	25 %

2025年度 講義要綱

科 目	リズム・ダンスあそび 選択 1単位 講義		講 師	笠井 千裕	
授業概要	実技を通して身体を動かす楽しさを学びながら、保育現場での引き出しを増やす。 他者と関わる力(コミュニケーション能力)を伸ばす。				
授業目標	リズムダンス遊びの楽しさを体感し、全身表現に対する苦手意識の軽減へ繋げる。 幼児期に必要なプログラムを楽しく取り入れる実践力を習得する。				
到達目標1	リズムに慣れる。 恥ずかしがらず体を大きく使って表現出来る。 目の前の子どもをイメージして取り組むことが出来る。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	●授業への取組み度(20点) ●笑顔での表現(10点) ●課題発表(20点)		
到達目標2	幼児の為のダンス(月齢も考えながら)を作ることが出来る。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	●幼児期に必要な動きの取入れ方(20点) ●子どもへの伝え方(15点) ●自分のアイディアを出し、仲間と意見交換できる(15点)		
授業方法	保育現場をイメージし、ポイントを伝えながら基本の動きから応用までを実践。 各自動画撮影やメモを利用し次の授業に生かす。				
授業計画	1 オリエンテーション				
	2 リズムあそび・リズムジャンプ、幼児向けダンス①				
	3 リズムあそび・リズムジャンプ、幼児向けダンス②				
	4 リズムあそび・リズムジャンプ、幼児向けダンス③				
	5 幼児向けダンス④ 復習しながら子ども達への伝え方を考える				
	6 自分が教える立場になって実践してみる				
	7 創作ダンスサンプル①				
	8 創作ダンスサンプル②				
	9 創作ダンスサンプル③				
	10 復習 自分が教える立場になって実践してみる				
	11 グループ創作① / グループ決め。テーマを決め曲を選ぶ				
	12 グループ創作② / 振付・練習				
	13 グループ創作③ / 振付・練習				
	14 グループ創作④ / 運動会発表など用に構成をつける				
	15 各グループごとに課題発表				
必須テキスト	特に指定無し				
参考文献	必要に応じて授業中に紹介します				
担当教員の 専門分野等	ダンスインストラクター 振付師 ダンスコミュニケーション教育				
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	20% %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10% %	
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	20% %	
	他者と関わる力	30% %	専門的知識・技術	10% %	

2025年度 講義要綱

科 目	ピアノⅠ		選択 1単位 講義	講 師	国友 真知子、鈴木 真智子、高橋 裕希子
授業概要	保育内容として音楽遊びを取り扱う際に、鍵盤楽器が担っている役割を理解し、子どもとの関りの中でより生き生きと楽しく指導できる技術を養う。また教育実習でも使用する季節や生活の歌等のレパートリー曲を演習し、準備する。				
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。				
到達目標1	・本校編『はじめての弾き歌い』を中心に、現場で活用する生活の歌・季節の歌から最低2曲はコードネームによる簡易伴奏を行うことが出来る。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	個人レッスンと自主練習への取り組み度(20点)、実技試験発表(30点)		
到達目標2	曲ごとのねらいや、子どもたちの年齢ごとの発達や視点を理解し、大きな明るい声、はっきりした言葉で表現豊かに弾き歌いが出来る。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	互いに伴奏し合う等のグループ演習への積極的参加度(20点)、実技試験発表(30点)		
授業方法	自分のスキルに合わせた課題を担当講師と検討し、現場でのレパートリーとしていつでも演奏できる曲を増やしていく。また教育実習併修者は、実習園からの課題がある場合には最優先に演習していく。				
授業計画	1 小グループに分かれて担当講師とのオリエンテーション				
	2 個人レッスン				
	3 個人レッスン				
	4 個人レッスン				
	5 個人レッスン				
	6 個人レッスン				
	7 個人レッスン				
	8 個人レッスン				
	9 個人レッスン				
	10 個人レッスン				
	11 個人レッスン				
	12 個人レッスン				
	13 個人レッスン				
	14 演奏発表の為のリハーサルと個別指導				
	15 演奏発表による実技試験と振り返り				
必須テキスト	特に指定なし				
参考文献	・1, 2年次に使用した教材・本校編『はじめての弾き歌い』 ・『子どもの指導法「音楽表現」』豊岡短期大学				
担当教員の専門分野等	専任: 木下裕子 東京藝術大学卒業。公財日本オペラ振興会育成部第6期修了。声楽、ピアノ、合唱、リトミック指導。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	15 %	
	他者と関わる力	15 %	専門的知識・技術	40 %	

2025年度 講義要綱

科 目	ピアノⅡ		選択 1単位 講義	講 師	杉橋 祥子
授業概要	保育内容として音楽遊びを取り扱う際に、鍵盤楽器が担っている役割を理解し、子どもとの関りの中でより生き生きと楽しく指導できる技術を養う。また採用試験や職場で活用する季節や生活の歌等のレパートリー曲を演習し、準備する。				
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。				
到達目標1	・本校編『はじめての弾き歌い』を中心に、現場で活用する生活の歌・季節の歌からハ長調以外の曲(ト長調、ヘ長調等)のコードネームによる簡易伴奏を行うことが出来る。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	個人レッスンと自主練習への取り組み度(20点)、実技試験発表(30点)		
到達目標2	曲ごとのねらいや、子どもたちの年齢ごとの発達や視点を理解し、大きな明るい声、はっきりした言葉で表現豊かに弾き歌いが出来る。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	互いに伴奏し合う等のグループ演習への積極的参加度(20点)、実技試験発表(30点)		
授業方法	自分のスキルに合わせた課題を担当講師と検討し、現場でのレパートリーとしていつでも演奏できる曲を増やしていく。自分に関わる現場で、どんな曲を、どのような場面で、どのようなねらいを持って活用していくかを明確にしながら練習に取り組んでいく。				
授業計画	1 小グループに分かれて担当講師とのオリエンテーション				
	2 個人レッスン				
	3 個人レッスン				
	4 個人レッスン				
	5 個人レッスン				
	6 個人レッスン				
	7 個人レッスン				
	8 個人レッスン				
	9 個人レッスン				
	10 個人レッスン				
	11 個人レッスン				
	12 個人レッスン				
	13 個人レッスン				
	14 演奏発表の為のリハーサルと個別指導				
	15 演奏発表による実技試験と振り返り				
必須テキスト	特に指定なし				
参考文献	・1, 2年次に使用した教材・本校編『はじめての弾き歌い』 ・『子どもの指導法「音楽表現」』豊岡短期大学				
担当教員の専門分野等	専任:木下裕子 東京藝術大学卒業。公財日本オペラ振興会育成部第6期修了。声楽、ピアノ、合唱、リミック指導。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	15 %	
	他者と関わる力	15 %	専門的知識・技術	40 %	

2025年度 講義要綱

科 目	造形と絵画		選択 1単位 講義	講 師	目黒 祥元
授業概要	1、2学年で学んだ多様な造形技法を総合し、一課題にじっくり時間をかけて共同制作実習をします				
授業目標	現場での応用までを考えた課題の構想、その準備から完成までの取り組み経験を積む 必要に応じて、時には幼児造形の枠を超えた造形技法や画材も採用し、幼児造形への応用を考えてみる				
到達目標1	課題制作にあたり、完成までの時間配分、プロセス、準備などを主体的に計画できるようになる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	計画したプロセスの進捗状況を自分で管理し制作に取り組んでいる(30点) 課題作品を期限までに完成させて提出できる(20点)		
到達目標2	初めて接した画材があっても、画材の特性を見極め、今までに学んだ造形技法を応用して制作に活かせるようになる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	準備、使用、始末などを理解して、適切な画材の使いこなしと管理ができている(30点) 作品の出来映え評価(20点)		
授業方法	クラスをグループに分け共同制作をします 15回で、1から2課題をじっくり取り組みます 進捗状況などによって授業内容を変更する場合があります				
授業計画	1 グループ分け、授業の進め方の説明 店のイメージを画用紙に描き、話し合いで制作方針を決め、役割分担を考える				
	2 制作のタイムスケジュールを立てる 準備する材料を書き出してみる 制作を開始する				
	3 各グループの計画に沿って、準備、制作				
	4 各グループの計画に沿って、準備、制作				
	5 各グループの計画に従って、準備、制作				
	6 各グループの計画に従って、準備、制作				
	7 各グループの計画に従って、準備、制作				
	8 各グループの計画に従って、準備、制作				
	9 各グループの計画に従って、準備、制作				
	10 各グループの計画に従って、準備、制作				
	11 各グループの計画に従って、準備、制作				
	12 各グループの計画に従って、準備、制作				
	13 制作を完成、展示する				
	14 ツブツブの粒子がある岩絵具を使って絵を描いてみる				
	15 ツブツブの粒子がある岩絵具を使って絵を描いてみる				
必須テキスト					
参考文献					
担当教員の専門分野等	美術家 本稿においては、資格試験の実技指導に当る。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	5% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %	
	社会人としての基本	5% %	主体性 素直 思いやり	20% %	
	他者と関わる力	20% %	専門的知識・技術	40% %	